

かじや知宏 議員報告



<生年月日>昭和43年9月12日 <年齢>46歳 <出身地>大阪府枚方市 <趣味>読書、スポーツ観戦、神社仏閣巡り <血液型>O型
<経歴>阪保育所→殿山第二小→枚方三中→牧野高→龍谷大→報知新聞社(11年)→枚方市広報課(3年3ヶ月)→行政書士

<市役所>〒573-8666 枚方市大垣内町2-1-20 電話072-841-1221代

<自宅>〒573-0171 枚方市北山1-23-57 電話090-3705-9393

Eメール tomohiro@t-kajiya.com

かじや知宏のホームページ
<http://www.t-kajiya.com>

(1)市職員の人事・給与制度について

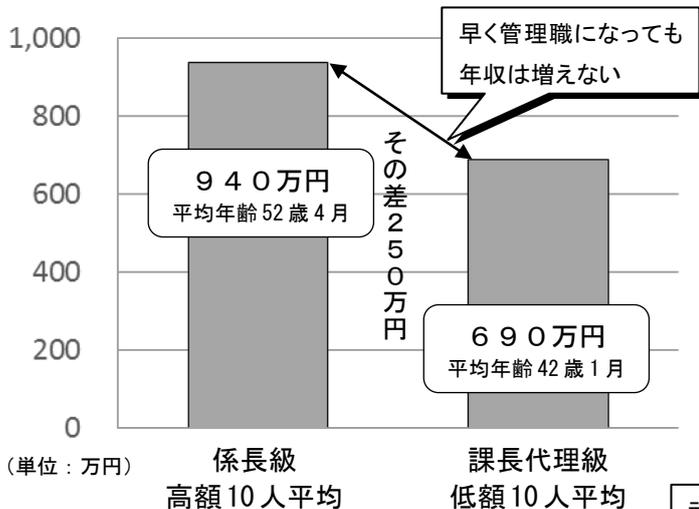
職員のやる気を失わせる年功序列の給与制度

係長の年収：940万円 > 課長代理（管理職）の年収：690万円

年功序列の弊害を解消し、頑張った職員が報われる制度へ

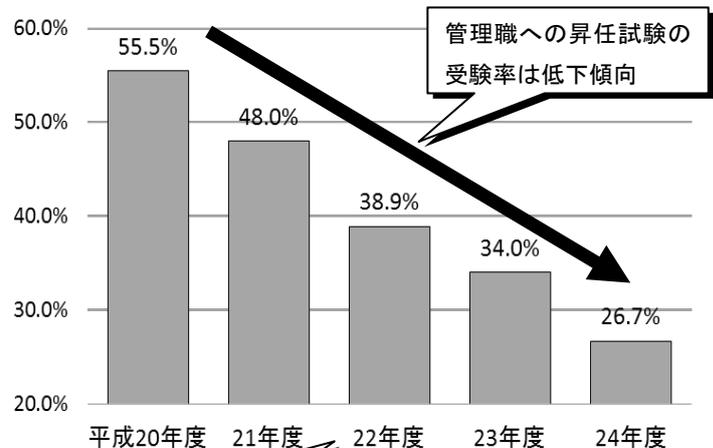
課長代理級（管理職）と係長級職員の年収比較

上司と部下で年収の逆転現象が



課長代理への昇任試験受験率の推移

4人中3人は管理職試験を受験しない



頑張っても管理職になっても、年収が上がらず責任だけが増え、職員のモチベーションが低下？

<次のページに続く>

税金の流れの透明化 ムダの排除 既得権の見直し

市民の手に税金と政治を取り戻します!!

今回の議員報告は、9月議会で私が行った一般質問の項目を取り上げ、その要旨や考え方について掲載しています。なお、各質問の詳細については「かじや知宏のホームページ」に掲載していますのでご覧ください。

この議員報告は、市政調査の目的で発行しています。枚方市政に関するご意見・ご提言・ご感想がございましたら、お気軽にお寄せください。皆さまから頂戴したご意見等は、今後の議員活動に生かしていきます。



箕面市では「責任と処遇の一致」する制度を導入 国基準ではない市独自の人事・給与制度を

枚方市の給与制度は、国の制度を基礎としており、役職が上がっても給料に差がつかない実態があります。例えば、係長で年収の多かった上位10人の平均が約940万円であるのに対し、管理職である課長代理級の下位10人の平均は約690万円と大きな逆転現象が生じています。この現象は、昇格とは関係なしに「年功序列」の給料になる現在の制度の弊害とも言えます。このように頑張っても早く管理職になった職員よりも、勤続年数が長いのに部下にとどまっている職員の方が、大幅に年収が高いという不公平な待遇は「昇格しても責任が増えるだけ」「昇格したら損」という空気を蔓延させかねず、職員のやる気の低下に繋がることが考えられます。実際に課長代理の昇任試験への受験者の割合が、平成20年度は55.5%であったのが、24年度には26.7%へと大きく低下しているなど、管理職への昇任希望者の減少といった課題が明らかになっています。

例えば、箕面市では人事・給与制度の構造改革に取り組み、国の制度に基づかない独自の制度を来年

4月から導入することになりました。「年齢と処遇の一致（＝年功序列）」から「責任と処遇の一致」へ給料表を大きく転換するとともに、人事制度において客観性・納得性を上げる評価制度を導入することにより、真に頑張る職員が報われる制度への改革を目指しています。昇格しても給料に差がつかない実態を解消するため、一般職と監督職、監督職と管理職などの職階の境目において、級間の号給の重ならない「責任と処遇が一致する給料表」（下記図参照）の導入をはじめ、管理職手当の役職間での支給額の差を大きくするなど、これまでの自治体における人事・給与制度に一石を投じる抜本的な改革です。

枚方市においても、管理職への昇任希望者の減少や、今後、定年延長の実施に伴う人件費の増加が懸念される中、50歳台以降の給与抑制や責任と処遇が一致するメリハリのある給与制度への改革が急務です。今後、箕面市の事例などを参考にしながら、国の制度に基づかない市独自の人事・給与制度の構築に取り組んでいくよう提言をしました。

箕面市の 給料表イメージ図

上下の職階どうして給料月額に大幅な重複がある。同期なら昇格しても給料に差がつかない。また部下の方が、給料が高くなる逆転現象も。

一般職	監督職	管理職
		456,200
422,600	354,700	335,100
		253,500
	185,800	

現行の給料表

一般職	監督職	管理職
	450,000	
380,000		320,000
		185,800

新しい給料表

職階間の給料の重複は0ポイント。昇格により、役職相応の給料に移行。

(2) 国旗・市旗の掲揚のあり方について

粗末な扱いをせず、国際儀礼に則った適正な掲揚を

枚方市では、本庁舎をはじめ市の複数の施設や一部の小中学校で、国旗・市旗が掲揚されています。しかし、夜間や雨天時にも掲揚されたままの状態です。国旗の取り扱いについての国際儀礼では「国旗は国の象徴、国民統合の象徴」であり「雨天・日没後の掲揚は原則行わない」となっています。夜間や特に雨天時の掲揚は、国旗の汚れや破損の原因となります。人員や施設の都合などいかなる理由があるにせよ、粗末な扱いが許されるはずはありません。

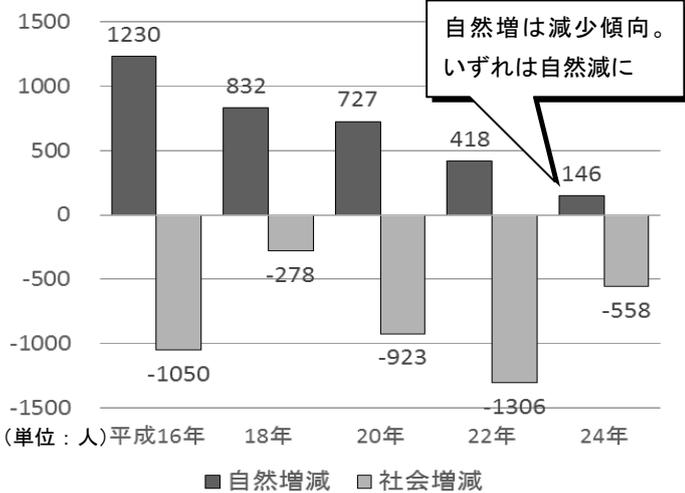
特に小中学校においては、国旗の意義や国際社会における位置づけを子どもたちに教えるよう、学習指導要領で示されているにも関わらず、国際儀礼を無視して夜間や雨天時にも国旗を掲揚しており、非常に問題があります。今回、本庁舎については、私が質問通告を行ってから、適正な取り扱いへと改善されました。他の施設についても、ルールに則った適正な掲揚方法に改善するよう、今後も取り組んでいきます。

(3) 転入、転出に関するアンケート調査について

人口減少社会を見すえ戦略的な定住促進・人口誘導策を

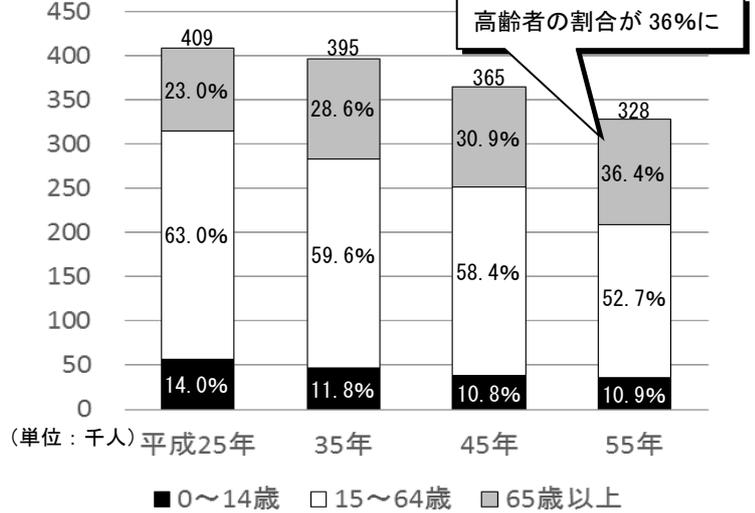
枚方市の人口動態の推移

転出超過の傾向が続く



枚方市の年齢階層別人口推計

30年後には人口が2割減少



※枚方市人口推計調査報告書より
※自然増減＝出生児数－死亡者数、社会増減＝転入者数－転出者数

※枚方市人口推計調査報告書より

転入・転出超過市町村 (近畿地方)

順位	転入超過市町村	全国順位	順位	転出超過市町村	全国順位
1	大阪市	3	1	寝屋川市	7
2	吹田市	10	2	枚方市	8
3	豊中市	13	3	尼崎市	15
4	神戸市	20	4	大東市	16

※住民基本台帳人口移動報告
平成25年結果 (総務省統計局) より



アンケートや統計を活用し転入・転出の現状把握を 都市間競争に打ち勝つにはデータに基づいた施策展開が必要

今年1月に発表された総務省の報告によると、枚方市の転出超過数は全国8位という衝撃の結果でした。人口推計では、出生児数と死亡者数で測る「自然動態」と転入者数と転出者数で測る「社会動態」があります。枚方市の自然動態は、いまだ出生児数が死亡者数をわずかに上回る自然増の状況ですが、少子高齢化の進行により減少に転じるのは時間の問題です。また社会動態については、十数年前から転出超過の傾向が続いており、非常に深刻な状況です。

人口減少社会にあって、社会的要因による人口減をどのように抑制していくのかは、どの自治体でも共通の課題です。今後、税収確保策のひとつとして定住促進や人口誘導をどのように図っていくのか、特に地域の活力となる若い世代の定住をどのように促進していくのかを巡って「都市間競争」が激しく

なることが予想されます。枚方市が「都市間競争」に打ち勝つためには、根拠のない思い込みではなく、人口関連の統計をはじめ様々なデータを調査し、その正確な分析に基づいた施策展開が必要です。

市は7月～8月に、転入・転出者に対してアンケートをとりましたが、1割程度しか回答が得られなかったとのこと。転入・転出の動態や理由等を分析していき、人口移動の現状とその背景について把握することにつながり、住民のニーズやまちづくりの課題などを整理するための重要なデータになります。もっと本腰を入れて取り組むべきです。

市はこのアンケート調査の重要性を認識し、今後も継続するとともに回答率を上げて正確な現状把握と分析を行い、定住促進・人口誘導施策につなげていくよう提言しました。

枚方市ホームページに市の見解が掲載されました

自治会は政治的に中立であることが基本

Q. 自治会として、特定の政治家を支援することは問題ないのでしょうか。

答え 自治会等が、良好な地域社会の維持および形成に役立てる目的の範囲内において、特定の政治家を支援することは禁止されるものではありません。しかし、自治会等は、地域住民の理解と協力によって自主的に運営される団体という性格上、政治的に中立であることが基本であると考えます。政治的な活動内容につきましては、組織内で誤解のないよう十分議論し、注意していただく必要があります。また、地方自治法第260条の2に基づき、認可された自治会等については、特定の政党のために利用してはならないと規定されています。

↑ 枚方市のホームページ「自治会Q a集」から

市内の一部の自治会では、選挙の際に特定の政治家を推薦するとともに、会員（住民）に支援を依頼しているケースがあり、問題となっていることを6月議会で質問しました。

その際に、自治会の政治的中立性を担保するため、ホームページや冊子などを活用し具体的な啓発を行うよう提言していましたが、今回、市のホームページ「自治会Q a集」に自治会における政治活動についての市の見解が掲載されました。今後も自治会の政治的中立性が守られるよう、積極的に取り組んでいきます。

特定の団体・地域のための「口利き」「顔つなぎ」「利益誘導」の政治から脱却

あしたの枚方のために 新しい政治への挑戦



私の市議会議員としての任期もあと半年足らずとなりました。任期中の議会定例会も、12月・3月の2回のみですが、1

期目の集大成のつもりで残された期間、精一杯頑張っていきます。

さて、任期末が迫ってくると、何かと周りが騒がしくなってきますが、私は「口利き」「顔つなぎ」等の地域活動は行っていません。政治家がお祭りをはじめとする地域行事や冠婚葬祭などで顔つなぎをし、そこでの「あれも」「これも」の要求要望を選挙の票に変えてきたその結果が、国と地方を合わせて1000兆円を超える借金です。これはある

意味、有権者がこのような政治を望んできた結果でもあります。しかし、私は「この政治の仕組みを変えなければ枚方の未来はない」との危機感を持ち、政治の道を志しました。

人口減少社会を迎え、地方自治体では定住促進・人口誘導による税収確保と、行財政改革による歳出抑制への取り組みが急務です。これからの地方議員の役割は「口利き」「顔つなぎ」ではなく、市政の課題を精査し、その解決策を提示していくことです。かじや知宏は、議員本来の仕事である行政のチェックと政策提言に全力を注ぐとともに、議員報告チラシ等を通じての情報発信に積極的に取り組んできました。今後もあしたの枚方のために「新しい政治への挑戦」を続けていきます。

活動の詳細についてはホームページをご覧ください

かじや知宏

で 検索



携帯電話からブログ
をご覧になれます



tomohiro.kajiya



@kajiya_tomohiro

※フェイスブックとツイッターのアカウントを開設しています。

駅前報告を行っています

～520回継続中～

一人でも多くの市民の方に市政情報をお伝えしたいという思いから、駅前「議員報告」の配布を行っています。もし見かけられましたら、お気軽にお声掛けください。